

支部長挨拶および支部大会について

支部長 大石晴美
(岐阜聖徳学園大学)

平成 26 年度を迎えました。会員の皆様には、日頃の活動にご理解、ご協力をいただき御礼申し上げます。本年度も大学英語教育学会中部支部では、新しい会員をお迎えし、英語教育の発展へ向けて様々な試みに取り組んで参ります。

現在、我が国では、文部科学省からの提案に始まり、英語教育改革が各地で進んでいます。たとえば、岐阜県におきましては、グローバル人材の育成に資するため、新学習指導要領「外国語」の着実な実施を促進するとともに、

小・中・高等学校の連携を焦点にあてた継続性のある英語教育の検討が進められています。同地区に所在する小・中・高等学校の教員および生徒が相互に交流するなど、全県的に英語教育の改善に向けて研究・開発、実践が始まりました。大学英語教育学会中部支部としても、指導者養成および学習者への教育に向けて研究と実践を重ねていく所存です。

今年度は、6月7日（土）に、第30回支部記念大会を、愛知県に所在する相山女学園大学（星ヶ丘キャンパス）で開催いたします。テーマは、「第二言語習得論からみた大学英語教育—量的アプローチと質的アプローチの共存—」です。特別講演とシンポジウムを企画し、第二言語習得論と大学英語教育について、二つの研究手法に基づき議論を展開いたします。特別講演では、第二言語習得論の第一線で活躍の村野井仁先生（東北学院大学）、シンポジウムのパネリストとして、竹内理先生（関西大学）、佐々木みゆき先生（名古屋市立大学）、柳瀬陽介先生（広島大学）をお迎えし、現在の大学英語教育のあるべき姿について一石を投じていただきます。フロアからも、研究者の方々、英語教員、英語学習者他、英語教育に関心のある方々からのコメントをお待ちしております。

また、本部事業である「英語教育セミナー」を中部支部のもと開催します。テーマは、「JACET 英語教育セミナー—小中高大連携の現状と課題—」です。まさに今求められている我が国の英語教育の方向性を議論し、現場にいかに応用するかを議論します。定例研究会は、例年通り特別講演、一般発表、研究会発表を行います。活動の詳細は、JACET 中部支部ホームページでご案内させていただきます。

現在、研究を進められている方、これから始めようとされている方、是非、支部大会、

目次

支部長挨拶および支部大会について 大石晴美	1頁
海外学界の動向 海外の言語学・応用言語学の動向 田中春美	2頁
講演会報告 ・宗宮喜代子氏「現代英語における『SVOの構文の体系について』 小宮富子 ・安村仁志氏「ロシア学の立場から見た英語・英語教育」 吉川 寛	4頁 4頁
会員著書紹介 「現代社会と英語—英語の多様性を見つめて」 塩澤 正	5頁
Cyber Space Corpus of Global Web-based English 藤原康弘	6頁
掲示板	7頁
事務局より	8頁

セミナー、研究会にお越しいただき、我が国の英語教育改革について語りませんか。皆様と情報交換をし、時代に即したグローバル人材育成のための英語教育に向けて研究および実践を広げていきたいと存じます。

会員の皆様、これから会員になられる皆様に、支部の活性化にお力添えをいただくようお願い申し上げます、新年度の挨拶とさせていただきます。

海外学界の動向

海外の言語学・応用言語学の動向

これまで、海外の国際的学会出席の感想や、米国の大学事情の報告などはあったが、それをさらに拡大解釈して、ハワイ大学での記念行事を中心として、海外の言語学や応用言語学の動向を探ってみよう。

3月7日（金）の午後から夜にかけて、ハワイ大学言語学科（現在も学部はなく、大学院のみ）創立50周年記念の行事が行われた。大学院で4年間お世話になった家内と、1987年度の後半7ヶ月客員として同学科に籍を置かせてもらった私も、その行事への参加を一番の目的として、2週間あまり大学構内にある東西センター（EWC）のゲストハウスに滞在させてもらった。これは、私が1974年から1976年にかけて、EWCの客員研究員であったおかげで、同窓生としての特権によるものである。

祝会は、ハワイ大学のほぼ中央にあるキャンパスセンターの広い舞踏室で開催され、午後3時から5時半までポスターセッション、

その途中から飲み物やおつまみが出た。ポスターには、家内より少し後に言語学でPh. D.をとられた外池滋生氏（青山学院大学）をはじめ、13のセッションが展示され、そのうち4つが日本人のPh. D. 取得者によるものであった。外池氏のように英語や、海外の日本語を扱ったものもあったが、全体としては、ハワイ大学言語学科の特色の1つである太平洋諸島の言語や、消滅しそうな言語を題材としたものが多かった。この2つのテーマは、世界の言語学全体でも喫緊の要務とされている事柄である。

続いて5時半から、ハワイ大学副学長と現在の言語学科長（Robert Blust教授）の歓迎の挨拶があり、さらに学科創立当時のスタッフだった4人の教授によるパネルディスカッションが行われた。創立の中心だったマコイン教授（Howard P. McKaughan）はすでに亡くなられており、1963年から3年間学科長代理と学科長を勤められた。次の学科長はパネルの1人のグレイス教授（George W. Grace）で、1966年から3年間勤められ、次の学科長が最長不倒記録の26年（1969-1995）を続けられたベンダー教授（Byron W. Bender）であり、彼もパネルの1人であった。参考までに、以後の学科長は、フォーマン教授（Michael Forman, 1995-2001）、オグレイディ教授（William O'Grady, 2001-2004）、ブラスト教授（上記、2005-2014）で、この秋からはドネガン教授（Patricia J. Donegan）に代わることである。

ベンダー教授とグレイス教授のほかには、創立当時にニュージーランドからスカウトされたリード教授（Lawrence A. Reid）と当時

南雲堂の英語テキスト

多読とライティングの『総合時事英語テキスト』が登場！

2013年度新刊

木村友保 / 佐藤雄大 / 浅井恭子 編著

Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS B5判 120頁 CD付 2,100円（税込）全28章 各章4ページ Review test有

『NHKワールド・ニュースで学ぶ日本と世界の姿』—多読とライティングでその深層に迫る— 多読とライティングを通して時事、放送英語の捉え方をマスター！

POWER-UP シリーズ

▶ *Power-Up English* <上級編>/<中級編> 2013年度 改訂新版登場！/<基礎編> ▶ *Forerunner to Power-Up English* <入門編> も好評！

コミュニケーションに必要な英語の基礎力養成に！ JACET リスニング研究会編 B5判 1,995円（税込）～

片野田浩子先生 大好評テキスト<TOEIC>シリーズ！

A Shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650 K（カナダ）メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リーディングシリーズ

A Shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650 K（カナダ）メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リスニングシリーズ

サブテキストに！ 半期用教材として！ 使い方多様！ レベルに合ったスコア一別！ 大好評『5分間』シリーズ B5判 各735円（税込）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町361 TEL: 03-3268-2311・FAX: 03-3269-2486・E-mail: nanundo@post.email.ne.jp・URL: http://www.nanun-do.co.jp/

若手のシュッツ教授 (Albert J. Schütz) がパネルに参加され、それぞれの立場から当時の学科の雰囲気や以後の歴史の数コマが語られた。中でも、1977年の夏にハワイ大学言語学科が主催し、JACETが仲介して多くの日本人学者も参加した、アメリカ言語学会の言語学講座 (the Linguistic Institute) はハイライトで、グレイス教授によると、それを契機に全米でハワイ大学言語学科の評価が数段上がったそうである。なお詳しくは、InternetでGeorge W. Graceを引くと、その著作リストの中に‘On the History of the Department of Linguistics at the University of Hawai'i at Mānoa’ (2007)という回顧録 (約10頁)があるがあるので、参照されたい。なお個人的な話になるが、1977年の講座の1つに、敬愛するフィルモア教授 (Charles J. Fillmore) の定式表現 (speech formulas) の研究があり、その興味深さに堪能したものだ。ところが今回、彼が名誉教授となっていたカリフォルニア大学バークレー校から来たハワイ大学卒業の人物から、2月に彼が亡くなったことを聞き、信じられない思いであり、残念でならない。1976年のJACET夏季セミナーに、Lily Wong夫人とともに来日され、名誉会員でもあった方で、中部にも何度か来られていたので、ご存知の方も少なくないことだろう。詳しくは、<http://linguistics.berkeley.edu/charles-j-fillmore-1929-2014>を参照されたい。

さて話を3月7日の祝会に戻すと、パネルディスカッション後、午後6時頃から再び立食で夕食が出され、先生方や来場者間で歓談が行われた。そして7時頃から現在の言語学

科スタッフの短い自己紹介や、大学院生による言語資料化訓練センター (Language Documentation Training Center) の紹介があり、最後にオグレイディ教授 (上記) が、いくつかの学科と協力し (その中でも特に Dept. of Second Language Studies は、第二言語習得 SLA や応用言語学の分野で世界的に有名) ハワイ大学の中に新しい学部 (College of Languages, Linguistics, & Literature) が作られているが、言語学科がこの推進力となって、さまざまな活動を行っていくことを宣言された。こうしてほぼ予定どおり午後8時に祝会は終わり、100人足らずの参加者一同は、別れを惜しみながら帰途についた。

田中春美 (南山大学名誉教授)



成美堂 2014年 *Seibido New Publications* 新刊

Supreme Reading 2 1,900 円(税別)	AFP World News Report 2 2,500 円(税別)
The Heart of Britain 1,900 円(税別)	World Wide English on DVD -Volume 1 - 2,400 円(税別)
Trend Watching 1,900 円(税別)	VOA News Clip Collection 2,400 円(税別)
Good Choice -Law in Daily Life- 1,900 円(税別)	Meet the World
Our Place in the Universe 1,900 円(税別)	-English through Newspapers- 2014..... 2,000 円(税別)
English Challenger 1,900 円(税別)	Making Sense of the World
Genre Approach to Paragraph Writing 2,000 円(税別)	-Wisdom through Knowledge- 1,900 円(税別)
Overall Skills for the TOEIC®Test 2,200 円(税別)	
Valuable Clues for the TOEIC®Test 2,600 円(税別)	

株式会社 成美堂 **S SEIBIDO**

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22

TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

URL <https://www.seibido.co.jp> e-mail: seibido@seibido.co.jp

講演会報告 1

「現代英語における『SVO±1』の構文の
体系について」

宗宮喜代子
(岐阜聖徳学園大学)

2013年12月21日
(於 中京大学)

平成25年度12月定例研究会では、岐阜聖徳学園大学教授・東京外大名誉教授の宗宮喜代子先生による「現代英語における『SVO±1』の構文の体系について」と題する講演が行われた。宗宮先生は英語学のご専門であり、多くの業績の中でも2012年に出版された『文化の観点から見た文法の日英対照』（ひつじ書房）は長年のご研究の集大成とも呼びうるものであり、本講演では同書の論題の中から、特に英語の基本構文の体系に関する独自の興味深い見解が紹介された。

講演の冒頭で、チョムスキーの言語理論をはじめ様々な理論の研究を経て自身の理論構築に向かったことなどへの言及がなされたが、上掲書はまさに言語学者としての膨大な研究蓄積と明晰な研究史観、言語使用者の直観に沿う説明の的確さなど、簡潔な説明文の中に多くの革新性が含まれ、先生のこれまでの真摯な研究姿勢を体現したものとなっている。講演では、日本語と英語の文化的基盤が「本当に違う」ことを指摘し、英語が「明瞭簡潔で「言いたい内容だけが前面に出てくる男性的な言語」（イエスペルセン）であるのに対し、日本語の中には（「被害の受け身」のように）「つきまとう『自分』」の内向き視点が常に存在すること、また、西洋画の遠近法に見られる「直線志向」と日本の浮世絵に見られる「多角的視点」の相違がそれぞれの文法にも表れていること等が解説された。

論点は、英語の構文が基本的に「SVO」を希求しているということであった。「SVOは英語構文における無標の典型用法」であり「二つの個体間の『因果関係』を表す」という説明自体は目新しいものではないが、“walk”とえばよいのに“have a walk”という疑

似SVO構文を使いたくなる英語母語話者の深層心理に言及されると、素直に感動する。「『典型』を見れば何を表したい言語なのかが分かる」という指摘も説得力があり、英語構文における「典型」と「周縁」の関係を、「典型」を軸に体系的に説明しているところが宗宮理論の魅力であると思われた。典型的なSVOは受動態などの生産性も高く、受ける制約も少ないが、SVOO・SVOc・SVOAなどの「SVOプラス1」や、SVC・SVA・there構文などの0を含まない「SVOマイナス1」（なる構文）は生産性も低く、受ける制約も多くなる。

世界の現象は「因果関係」だけで言い尽くせるものではない。つまり、SVOだけで処理できるものではない。そのような時に「SVO±1」などの周縁的構文が用いられるということであり、「英語は因果関係の薄い事柄についても、因果関係を表すSVOをベースに、要素をプラス・マイナスしながら、表現しようとする言語である」ということに気づかせていただけたのは、実に「爽快な」知的興奮であった。

小宮富子（岡崎女子大学）

講演会報告 2

「ロシア学の立場から見た
英語・英語教育」

安村 仁志
(中京大学)

2014年3月1日
(於 中京大学)

2014年3月1日（土）中京大学にて開催されたJACET中部支部定例研究会で中京大学の安村仁志氏による学術講演が行われた。氏は、まず、ロシア学で重要な要素であるロシアの教会に見られる「玉葱型」ドームの分析を行った。ロシア教会に見られるこのようなドーム形状の起源は、イスラムからの借用という説と降雪に対する対応策であるという説があり定かではないが、18世紀になると多様な意味

付けが行われた。「玉葱」の形から「ろうそくの炎」への連想により「Holy Spirit」へとシンボル化された。また、ドームに施された金、青、緑、黒の色彩から、キリスト、聖母マリア、聖人などのシンボル化もなされたと分析する。次いで、ロシア正教会について言及し、ロシア独特の十字架の意味、正教会と英国教会との分離等、興味深い指摘がなされた。

後半は、言語学の視点での講演となった。まず、ロシア語と英語との通時的および共時的比較を行い両言語の違いを明示する。音韻性、屈折、文構造等における相違点を指摘し、同系の言語であるが両言語の言語距離は近いとは言えないことを示した。更に、その違いが日本におけるロシア語教育と英語教育への取り組み方の違いに関連していると主張する。日本人の英語と英語圏への親密度の高さやロシア語より高い言語接触の頻度は英語教育に有利な要素となっていると指摘する。更に、英語発音の難しさと語順に強く拘束され過ぎる文構造などの不利な面を考慮しても、ロシア語の学習・教授より容易であると主張する。最後に、最近の日本における英語教育に苦言を呈した。「聞く」、「話す」の音声的な学習に特化しすぎるので、「読む」、「書く」の能力を伸ばす必要があると言うものである。的確な指摘である。

ロシア学の視点から英語、英語教育に対しての文化的、言語的な氏の指摘は、英語教育に携わる我々に大いに参考になる講演となった。

吉川 寛 (中京大学)

会員著書紹介

塩澤正、榎木蘭鉄也、小宮富子、
倉橋洋子、下内充 (編)

『現代社会と英語—英語の多様性をみつめて』
金星堂 (株) 2014年

3,500円

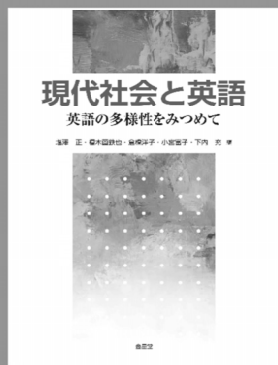
「会員著書紹介」は著書や編集者本人が書くのは本来ではないのですが、本支部の多くの会員や役員が執筆者でありますので、書評的なコメントは控えさせていただき、異例ながら編者が簡単に中身のみ紹介させていただきます。

本書は JACET 中部支部設立以来、JACET の発展、運営にご尽力されてきました中京大学教授、吉川寛先生 (元理事、支部長) が 2014 年 3 月末日でご退職をお迎えになるのを祝して、先生と交友のある先生方・研究者の総勢 34 名が寄稿して編まれた論文集です。

退職記念論文集ではありますが、『現代社会と英語—英語の多様性をみつめて』というタイトルが示すように、国際化とともに常に変化しつづける現代の日本社会を「国際英語論」というテーマを中心に置き、言語学や英語教育の観点から考察し、通読可能な専門書に近い編集になっていることは、類書にない特徴と言えるかもしれません。

本書は全部で 4 部から成ります。

第 1 部では国際英語論を理論面から考察した 10 編の論文で構成されています。国際英語論の歴史的な流れをまとめた論文から始まり、音声学、脳科学、文化論、コミュニケーション論などの領域から、国際共通語として



現代社会と英語 英語の多様性をみつめて

塩澤正・榎木蘭鉄也・倉橋洋子・小宮富子・下内充 編

¥3,780(税込) A5 上製判 389pp. ISBN978-4-7647-1135-8

英語教育界で注目されつつある「国際英語論」の理論と実践に関する論文を中心に、国内・外の第一線で活躍する骨太の研究者たちの言語学と英語教育に関する最新の知見を紹介。第二言語習得論、脳神経言語学、文化論、コミュニケーション論、コーパス言語学などの領域から、国際共通語としての英語とそのあり方を考察する。

 **金星堂**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21
TEL. 03 (3263) 3828 / FAX 03 (3263) 0716
e-mail: text@kinsei-do.co.jp URL: <http://www.kinsei-do.co.jp>

の英語とそのあり方を考察した意欲的な論文が並びます。

第2部では国際英語論を教育の現場に活かすための考え方や方法論に関する論文が7編集めてあります。具体的な授業実践、カリキュラム、指針など、国際英語論の考え方を日本の英語教育に反映させるために非常に有意義な情報が含まれています。World Englishes や English as an International Language (EIL) などという言葉の世界に広めた Larry Smith 氏や本名信行氏の論文なども含まれます。

第3部は応用言語学や英語教育論からの提言です。最新の第二言語習得論や神経言語学からの理論的考察に始まり、具体的な授業実践への応用に至るまで、言語教育に関係する非常に興味深い8編の論文が収められています。ここでは国際英語論は主要テーマではありませんが、それぞれの論文には、国際英語論との関係について言及があります。

第4部は最新の言語学の視点から、現代社会と英語を考察した9編の論文で構成されています。文化能力の測り方、辞書の用例やメタファーに関する考察など、言語学の醍醐味を統語論・意味論・語用論・社会言語学・コーパス言語学の最新の知見とともに味わうことができます。

34編の論文の一つ一つのタイトルをここに挙げることはできませんが、本支部会員の論文を中心にいくつか列挙させていただきます。イメージが湧くかもしれません。本書を手に入れるには、直接、金星堂(株)さんに連絡するのが一番早いと思われます。さらにご興味があれば、全論文のタイトルリストをメール (shioz@isc.chubu.ac.jp) にてご提供いたします。

日本語と日本人の英語

日本語話者の他者修復と国際共通語としての英語

国際英語と文化とコミュニケーション

多文化英語論と英語教育の対応—日本の3つの課題

言語間の距離と外国語学習の関係—脳科学的アプローチから

EUにおける多様な言語とリンガフランカとしての「英語」

日本人が英語を話す時の心理的障害—他の Expanding

Circleと比較して

「国際英語論」の視点に立った英語教育とは—具体的目標と留意点

国際英語時代のカリキュラム：学士課程と教職課程 (国際英語論)

アジア諸言語話者による英語閉鎖子音の発音

ハリウッドの挿入歌における英語使用の増加

3つのLKVE (The Lesser-Known Varieties of English) について

Firth & Wagner '97 and '07: Mainstream SLA Theory Wakes up to World Englishes

Englishes in the Expanding Circle—Second-class citizens in the community of World Englishes?—

第二言語習得における顕在学習と潜在学習：理論的考察

神経心理言語学からみた日本の英語教育への提言

大村はまと英語の授業

言語相対論と言語習得研究の接点

大学生のジェンダー意識調査—ジェンダーに敏感な視点を取り入れた大学英語教育の構築のために—

学習者ライティング・プロセスへの介入・支援について—認知的ライティング・

プロセス研究に基づいて—

空間の言語学

英米語にみる of と from の競合

日英語における家のメタファー

連結詞から見る日英語の文構造と英語の基本文型

発話解釈における主体性

塩澤 正 (中部大学)

Cyber Space

Corpus of Global Web-based English

<http://corpus2.byu.edu/glowbe/>

過去には「国際化」、近年ではいわゆる「グローバル化」への対応が声高に叫ばれています。どれほどの「日本人英語使用者」や「グローバル人材」が本当に必要かについては、さまざまな意見があるようですが、どうあれ、母語の異なる人たちの国際的なやりとりにおいて、最も用いられる言語が英語であることは事実といってよいと思います。いわゆる「国際共通語としての英語」(English as a lingua franca) という文言は、文部科学省の

言語政策にも用いられるようになりました。

そのような中、昨年、さまざまな英語 (World Englishes) を捉える上で、有益なコーパスが公開されました。名称は “The Corpus of Global Web-based English”、略して GloWbE です。このコーパスを公開しているサイト (上掲) によりますと、GloWbE は英語を日常的に使用している 20ヶ国 (英語を母語、または公用語とする国) から、約 19 億語収集されています。元のデータソースは、名称にもありますようにウェブサイトからです。

いくつか英語の多様性が感じられる検索例を紹介しましょう。シンガポール英語でよく用いられる “lah” を検索してみます。

“lah” は日本語の終助詞の「～ね」や「～よ」のような意味で、今では *Oxford English Dictionary* にも掲載されています。100 万語中の調整頻度における世界全体の平均は 1.43 回で、それを大幅に上回っているのは、やはりシンガポール (18.8 回) とマレーシア (36.5 回) です (下図参照)。なお、この表現、“lah” が、中国語の「了」から来たのか、マレー語の “lah” から来たのか、論争があるそうです。

つづいて文法的な「ゆらぎ」をみてみましょう。たとえば加算・不可算の区分は、話者の母語や文化、生活環境で、かなりゆらぐことが確認されます。たとえば “staffs” や “furnitureS” を検索してみましょう。そうすると、いずれの例も、おおむね①アジア圏 (シンガポール、マレーシア、フィリピン、香港)、②アフリカ圏 (ザンビア、ナイジェリア、ケニア、ガーナ等)、③いわゆる英語圏 (イギリス、アメリカ、オーストラリア等) の順に使用されている様子が確認できます。他にも “informationS” などともご覧ください。今後の

英語使用が拡大するにつれて、加算、不可算の区分はさらにゆれることが予想されます。

以上、簡単な検索例とともに、GloWbE を紹介してきました。検索のインターフェイスは、同サイトに搭載の COCA や BNC と同じで、その検索方法は赤野・堀・投野 (2014) 『英語教師のためのコーパス活用ガイド』 (東京: 大修館) にわかりやすく紹介されています。

好もうと好むまいと、英語は多様化し続けることが予想されます。さまざまな英語の世界に一步、踏み出してみたいはいかがでしょうか。

藤原 康弘 (愛知教育大学)

掲示板

JACET 中部支部紀要第 12 号への掲載論文 (学術論文、研究ノート、実践報告、書評) を募集いたします。ふるってご応募ください。締切は 2014 年 9 月 10 日です。詳細は支部ホームページをご覧ください。

締切: 2014 年 9 月 10 日

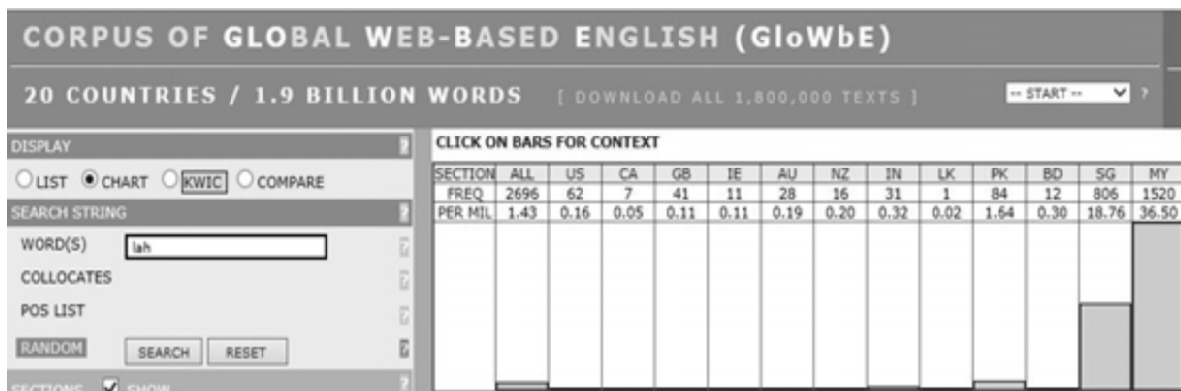
掲載料: 刷り上がり 1 ページにつき 1000 円の割合となります。

長さ: 論文 15 ページ、実践報告・研究ノート 10 ページ、書評 5 ページ程度

注意: 投稿方法や投稿先が変更される可能性があります。投稿規定詳細とあわせて、ホームページでご確認ください。

問合せ: JACET 中部支部事務局

中部支部紀要編集委員会



事務局より

◆「秋季定例研究会」「春季定例研究会」のお知らせ

2014年度より、これまでの12月定例研究会と2月定例研究会にかわって、「秋季定例研究会」「春季定例研究会」を開催することになりました。講演会やワークショップ、研究発表などを行います。お楽しみに。

2014年度の秋季定例研究会は、10月11日(土)に名城大学(名駅サテライト)で開催する予定です。(詳細は、決まり次第、支部ホームページに掲載します)

◆2014年度行事予定

2014年度の中中部支部の主な事業予定は以下の通りです。詳細情報・変更情報などは、支部ホームページでご確認ください。

6月7日 第30回中中部支部大会・第1回支部総会

9月10日 『JACET 中中部支部紀要』12号 投稿締切

10月11日 秋期定例研究会

12月20日 『中中部支部紀要』12号発行

◆JACET 英語教育セミナーのお知らせ

2014年度のJACET 英語教育セミナーは、12月6日(土)に愛知大学(名古屋キャンパス)で開催予定です。多くの会員の方の参加をお待ちしております。

◆2014年度中中部支部役員のご紹介

顧問 田中春美(南山大学名誉教授)
理事 大石晴美(岐阜聖徳学園大学)
大森裕實(愛知県立大学)

支部長 大石晴美

副支部長 大森裕實

事務局幹事 石川有香(名古屋工業大学)

幹事(支部会計担当)

今井隆夫(愛知教育大学非常勤)

研究企画委員(23名)

石川有香、伊東田恵(豊田工業大学)、今井隆夫、岩城奈巳(名古屋大学)、榎木蘭鉄也(中京大学)、大石晴美、大森裕實、岡戸浩子(名城大学)、片岡邦好(愛知大学)、木村友保(名古屋外国語大学)、リーア・ギルナー(文京学院大学)、倉橋洋子(東海学園大学)、小宮富子(岡崎女子大学)、佐藤雄大(名古屋外国語大学)、塩澤 正(中部大学)、鈴木達也

(南山大学)、下内 充(東海学院大学)、津田早苗(東海学園大学)、馬場景子(中部大学非常勤)、藤原康弘(愛知教育大学)、村田泰美(名城大学)、室 淳子(名古屋外国語大学)、吉川寛(中京大学)

◆新入会員のご紹介

2013年11月より2014年月までの中中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

渥美 陽子(聖隷クリストファー大学)、DiCello, Cheryl(相山女学園大学)、

加藤 佳子(名城大学(非常勤))、

Hall, Jeremiah(中部大学(非常勤))、

工藤 泰三(名古屋学院大学 外国語学部)、

梶浦 眞由美(名古屋大学(大学院生))、

桜井 陽子(愛知大学)、吉川 りさ(名古屋

大学大学院(大学院生))、Nutt, Julyan(東海

学園大学)、高 飛(名古屋大学(大学院生))、

山添 直樹(名城大学大学教育開発センター)、

Higa, James(南山大学短期大学部(非常勤))

◆2014年度 JACET 国際大会ご案内

第53回(2014年度)国際大会は2014年8月28日(木)～8月30日(土)の3日間、広島市立大学にて開催されます。

大会テーマ

Fostering English Communicative
Competence for Peace and Friendship

「平和と友好をめざす英語コミュニケーション力の育成」

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

中中部支部事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学 石川有香 研究室内

E-mail ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

JACET-Chubu Newsletter No. 32

2014年5月10日発行

発行者： 一般社団法人大学英語教育学会中中部支部
大石晴美

編集者： 石川有香

佐藤雄大 室 淳子